

# 自然と共生する“ものづくり”



写真左から、秋草直之(代表取締役社長)、森寺章夫(代表取締役副社長 環境担当)

## 新たな世紀をむかえて

「環境の世紀」21世紀をむかえ、環境への取り組みは法規制や国際的な合意事項の順守はもとより、自らの事業の特徴に即した自主的な取り組みを強化すべき時代になりました。

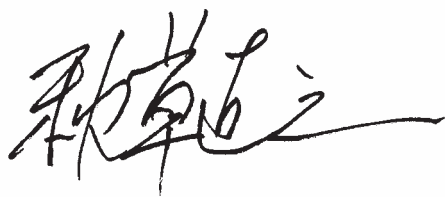
その意味で、富士通のビジネスがグローバルに展開するなか、廃棄物、資源・エネルギー問題とともに、製品やサービスに対する環境配慮の取り組みも同じ観点にたって実行することが、富士通の社会的責任を全うすることと考えます。

こうした考えに従って、今年度から国内・海外グループを対象とした「富士通グループ 環境行動計画」を策定し、グループ一体となった環境経営の強化を開始しました。

また、私はすべての社員が正しく富士通の持つ環境上の課題を認識し、何らかのかたちで参加することが重要であると考えます。私自身、環境に対して感じたことや考えを、社内の私設ホームページを通じて啓発しています。さらに社団法人経済団体連合会の環境安全委員会共同委員長として、社会における環境保全の機運を高めるべく、活動しております。

今後とも、富士通のプレゼンスのひとつとして、富士通の事業すべての領域で、環境への負荷改善と環境貢献に積極的に取り組んでいくことをお約束いたします。

富士通株式会社 代表取締役社長



## 持続可能な社会の実現に向けて

はじめに、2000年度末をターゲットに活動してきました「第2期富士通環境行動計画」は、すべての項目において目標を達成できたことをご報告いたします。

このことは、当社従業員の日頃の努力のたまものであると考えています。この勢いを駆って、秋草社長の言葉にもありますように、新たに「富士通グループ環境行動計画」を策定しました。この計画は、約1年をかけて工場、ビジネスユニットおよびグループ各社と協議を重ねて作成したものです。富士通を含めたグループ各社とも、2001年度から3ヶ年にわたる自ら定めた環境行動計画を基に、環境に配慮したさまざまな取り組みを推進していきます。

私は、事業活動に伴う資源やエネルギーの使用、廃棄物の発生など、環境に与える直接的な負荷を可能な限り低く抑えていくことに加え、環境に配慮した部品・材料の購入や製品のグリーン化、廃製品のリサイクルなどにより、間接的な環境負荷を低減していくことにもグループをあげて取り組んでいく所存であります。

今後とも本環境報告書を通じて、富士通の環境への取り組みと実行内容を公開してまいります。忌憚のないご意見をいただければ幸いに存じます。

富士通株式会社 代表取締役副社長

